

Publisher's Review

パブリッシャーズ・レビュー

● 東京大学出版会・白水社・みすず書房のPR紙 ●



みすず書房の本棚

[無料送付]

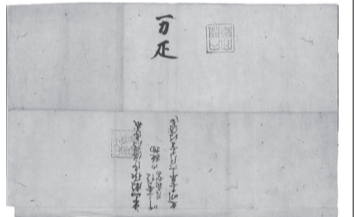
No. 23 2017 夏

(表示価格は税別です)

113-0033 東京都文京区本郷 5-32-21 tel. 03-3814-0131 http://www.msz.co.jp

室町時代の長年の謎に、 卓抜な回答

五味文彦



銭の折紙の例
『交換・権力・文化』より
国立公文書館蔵「蜷川家古文書」

足利義満や北山文化などで知られる室町時代は、実にわかりにくい時代である。かつて私は中世政治史の研究をこの時代から始めようと考え、取り組んだことがあったが、うまくゆかず、時代を遡って院政時代の研究から進めることにした。

その全のお手上げだった室町時代の研究に、真つ向から取り組んで大きな成果をあげたのが桜井英治氏であり、その第一論文集が出版されたのは今から二十年前の一九九五年である。

書名の『日本中世の経済構造』(岩波書店刊)からしても正面から切り込んだ内容であり、その影響力は、以後、中世史の研究者の多くの関心を室町・戦国時代に引き寄せたことを見ても明らかである。

てゆけば、たいへん魅力的で、不思議な時代だったことを明らかにされたばかりか、著者はそこからさらに政治史をも視野に入れて『室町人の精神』(講談社、日本の歴史12)を、流通経済への関心を贈与にかかわらせて『贈与の歴史学』(中公新書)を著わし、中世史研究者にとどまらず広く大きな影響を及ぼしてきた。そしてここに第二論文集『交換・権力・文化』を上梓するに至ったのであり、贈与と貨幣の問題を基軸にした九つの論文からなる。待望の論文集である。

序論は本書の構成と視角を提示している。これまで贈与経済史と貨幣史の研究を併行して進め、さらにその二つを架橋する考察を行ってきたことから、それらの論考をもつて書なしたとする。著者の考えている全体像がここから見えてくる。

しかしそれにとどまらずに、著者が今、考えるところの「若干の理論的問題」を提出して、実に刺激的な内容である。ただこの「若干の理論的問題」にここで触れてしまうと、それだけで終わってしまうので、九本の論考が何を明らかにしてきたのかを示しておこう。

第二章の「折紙銭と一五世紀の贈与経済」、第三章の「御物の経済」、第八章の「借書の流通」などは、タイトルから何を論じようとするのか一見してはわかりにくい。だが折紙銭(おりがみせん)や御物(ごもつ)、借書(しゃくしょ)などの動きや働きを探ることで、この時代の流通経済のメカニズムを明らかにする手がかりをつかんだ。

「贈与経済は極限まで進むと市場経済ときわめて近いものになるのである。」『贈与の歴史学』(中公新書)で角川財団学芸賞を受けた俊英による、鮮やかな日本中世社会論。

室町時代を政治史からではなく、社会・経済・文化の動きを丹念に見ると、贈与経済は極限まで進むと市場経済ときわめて近いものになるのである。『贈与の歴史学』(中公新書)で角川財団学芸賞を受けた俊英による、鮮やかな日本中世社会論。

「極限まで高まった債権の譲渡性は、一六世紀に入ると一転して鈍化・沈静化する。この時期に顔のみえな関係から顔のみえな関係へ、匿名的な関係から対面的な関係への回帰がいつせいに起きたことは明らかである」……(いずれも本書より)

「贈与経済は極限まで進むと市場経済ときわめて近いものになるのである。」『贈与の歴史学』(中公新書)で角川財団学芸賞を受けた俊英による、鮮やかな日本中世社会論。

「贈与経済は極限まで進むと市場経済ときわめて近いものになるのである。」『贈与の歴史学』(中公新書)で角川財団学芸賞を受けた俊英による、鮮やかな日本中世社会論。

贈与経済の極限

桜井英治

《交換・権力・文化 ひとつの日本中世社会論》



「贈与経済は極限まで進むと市場経済ときわめて近いものになるのである。」『贈与の歴史学』(中公新書)で角川財団学芸賞を受けた俊英による、鮮やかな日本中世社会論。

「贈与経済は極限まで進むと市場経済ときわめて近いものになるのである。」『贈与の歴史学』(中公新書)で角川財団学芸賞を受けた俊英による、鮮やかな日本中世社会論。

「贈与経済は極限まで進むと市場経済ときわめて近いものになるのである。」『贈与の歴史学』(中公新書)で角川財団学芸賞を受けた俊英による、鮮やかな日本中世社会論。

▽五味文彦『書物の中世史』(みすず書房、六四〇〇円)

いまや新自由主義は、民主主義を内側から破壊している。新自由主義は政治と市場の区別を取り払っただけでなく、あらゆる人間活動を経済の言葉に置き換えた。主体は人的資本に、交換は競争に、公共は格付けに。だが、そこで目指されているのは経済合理性ではない。新自由主義は経済の見かけをもちながら、統治理性として機能しているのだ。

その矛盾がもつとも顕著に現れるのが大学教育である。学生を人的資本とし、知識を市場価値で評価し、格付けに駆り立てられるとき、大学は階級流動の場であることをやめるだろう。

「わたしが言いたいのは、たんに市場と貨幣が民主主義を腐敗させ劣化させるというところだけではなく、政治的諸制度とその帰結がますます金融資本と企業資本によって支配

新自由主義の見えざる攻撃

ウェンディ・ブラウン
《いかにして民主主義は失われていくのか》
中井亜佐子訳



され、民主主義が金権支配すなわち金持ちによる金持ちのための支配にとつてかわられるということである。

民主主義は、黙っていても維持できるものではなく、維持している。民主主義を支える理念、民主主義を保障する制度、民主主義を育む文化はいかにして失われていくのか。新自由主義が民主主義の言葉をつくりかえることによって、民主主義そのものを解体していく過程を明らかにする。

『思想・現代社会』(四六判・336頁・四二〇〇円)

フランス革命の原動力
「J・イヌラエル」《精神の革命》
ラディカルな啓蒙主義者と現代民主主義の知的起源

スピノザの思想的系譜に連なるドルバック、エルヴェシウス、コンドルセ、ミラボーなどの「ラディカルな啓蒙主義者」たちの思想が、実はフランス革命の真の原因であり原動力であった。当時のパンフレットや雑誌、新聞などに現れた議論・論争を追い、政治運動にどのような影響を与えていったかを考察した画期的な一冊。

『目次』序文／第1章 進歩および世界の改良をめぐる啓蒙の路線対立／第2章 民主主義が社会階級制か？政治的断裂／第3章 平等と不平等の問題：経済学の台頭／第4章 啓蒙による戦争批判と「永久平和」の探求／第5章 対立する二つの道徳哲学／第6章 ヴォルテール対スピノザ：啓蒙が示す哲学体系の基本的二元性／第7章 結論

『哲学・歴史』(七月月中旬刊) (四六判336頁・予五〇〇〇円)

ヒューマンバイオロジーの視点から
M.L.パワー 《人はなぜ太りやすいのか》
山本太郎訳

人類は太り続けてきた。肥満人口は一九八〇年から倍増し、二〇一四年には世界の成人の三九%が過剰体重である。国別トップはクック諸島の八一%。ファストフード大国アメリカは七二%。肥満は古代からあったが、ここまでの流行は近年の現象である。これは一体なぜ起きたのか。本書はヒューマンバイオロジーの視点から肥満増加の原因を解明を試みた先駆的な仕事のひとつ。進化、適応、代謝熱力学、情報分子、生殖、遺伝、エピジェネティクスなど多岐にわたる膨大な知識を集約し、太る仕組みに肉薄した決定版である。

日本の肥満人口は相対的に低い。メタボリック症候群やダイエットへの関心は高い。▼既刊より『ブレイザー』『失われてゆく、我々の内なる細菌』(山本太郎訳)(三二〇〇円)

『生物学・医学・健康』(七月月中旬刊) (四六判392頁・予四二〇〇円)

今、タイムリーな外からの視点

橋本明子
山岡由美訳

《日本の長い戦後》
トラウマ、記憶、アイデンティティ

戦争を経験した世代が世を去りつつある。他方、憲法問題や歴史問題をめぐる東アジアとの軋轢は深刻だ。アメリカの大学で教える気鋭の社会学者が比較文化の視点から日本の戦争体験者とその子や孫の証言を読みこんだ。

両親や祖父母の記憶はおよそ千差万別だが、それらは思い出す側によって主観的に選択され、語りなおされている。そこでトラウマからの回復と修復がなされ、世代間の共同作業をつうじて「まっとうな歴史が築かれる。優先されるのは家のなかの調和。たとえば、家族の遺産を組みこまれた物語は、史実に照らして見なおされることはないし、他者を殺める現実的可能性は考えずにすむように、次世代は

《伝統》を描きなおよす

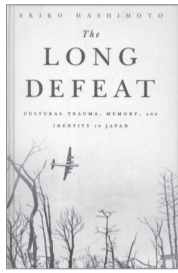
林も子 《精神分析再考》
クライエント中心療法の経験から

高校の歴史教科書の内容を分析すると、それはさらに鮮明になる。日本では、愛国心や忠誠心への不信感、世代をつなぐ記憶に暗号のように埋め込まれている。対照的に同じ敗戦国のドイツでは、戦後世代が両親や祖父母の過去と批判的に向き合っており、おのずと結果は違ってくる。

戦後七〇年。本書は、いま私たちが立っている歴史的地

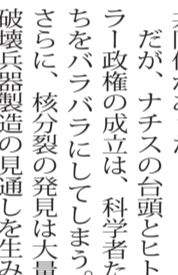
行動科学に基づいた心理療法が盛んになったいま、精神分析はもはや「過去の遺物」なのだろうか？ 本書は、熟達心理療法家が、今日の臨床場面における精神分析の意義を詳説するものである。

『臨床心理学・精神分析』(A5判・216頁・三三六〇〇円)



私たちが立っている歴史的地

実証研究の不足、男性中心主義の限界……伝統的な精神分析の考え方を臨床経験を基に取捨選択し、描きなおよす。精神分析理論を細部まで再点検していく筆致は、心への新たな接近法を示すだろう。



心身の専門家に本当に必要なものは何か。精神分析理論を見つめる著者のまなざしは、心という形なきものを探求しつづける心理療法家としての矜持に満ちている。

ゴンクール賞作家の理系小説

ジェローム・フェラーリ
《原理》
ハイゼンベルクの軌跡
辻由美訳



だし、行き着いた先はヒロシマへの原爆投下だ。「彼らは一挙に、全員そろって転落」してしまつたのである。

実際に起こったこと、書かれたこと、語られたことに粉飾をくわえず、しかし若き物理学者に「あなた」と呼びかける方法によって、この小説は類の無いイメージを歴史にもたらす。現在と過去を往還しつつ、言葉にならない世界のうちにハイゼンベルクを幻視する話題作。『海外文芸』(四六判・192頁・二八〇〇円)

みすず書房新刊

(2017.3.6)
東京・文京本郷5
三三三六〇〇三
(価格は税別です)

土方巽 衰弱体の思想

宇野邦一「衰弱体の採集」にいたる軌跡をたどり、『病める舞姫』を説く。晩年の舞踏と交流した著者による哲学的肖像。五二〇〇円

職人の近代

道真銀治 千代鶴慶秀の姿容
土田昇 日本の近代化が生んだ矛盾の中で、技術の志を守るために名工がかけた逸脱の試み。職人の道徳と誇りを描く。三七〇〇円

貧困と闘う知

教育、医療、金融
デューフロ ランダム化比較実験を駆使した実証により、常識を覆し、貧困削減の具体的な政策を提示する。峯陽一他訳。二七〇〇円

ソ連と東アジアの国際政治

1919-1941
麻田雅彦編 ソ連は東アジアにどう関わったのか。戦間期国際政治研究の最大の空想を埋める画期的論集。序論酒井哲哉。六〇〇〇円

精神医療、脱施設化の起源

英国の精神科医と専門職としての発展1890-1930
高林陽隆 二十世紀後半に世界的に展開されてきた脱施設化された精神医療の源流と歴史的方法を、英国の歩みから解明。五八〇〇円

アメリカ経済政策入門

建国から現在まで
コーエン&アング 成長は市場ではなく、政府が生んだ。上原裕美子訳。二八〇〇円

生物科学の歴史

現代の生命思想を理解するために
モランジュ フランス最先端の分子生物学者で歴史哲学者が、古代から現代までの生命思想の流れを描く。佐藤直樹訳。五四〇〇円

エコノミックス

マンガで読む
グッドウイン／パー 原理、学説、社会、感情が織り成す30年の経済史を一気読み！新しい経済の教科書。脇山美伸訳。三三〇〇円

詩人が読む古典ギリシア

和訓歌心
高橋睦晴 ホメロスから悲劇喜劇、エピクロスの哲学まで、長年の耽読にもとづく自由自在な批評に、ヘレニズム讃歌。四〇〇〇円

スターリンとモンゴル

1931-1946
山本恭輔 中国内戦と満洲国建国を脱みスターリンがとつた対モンゴル戦略は、ロシアの二次資料を駆使した実証研究。八〇〇〇円

誓います

結婚できない僕と彼氏が
学んだ結婚の意味
サウエージ パートナーシップと婚姻の関係を同性愛者の視点で見ると発見がいっぱい！ユニークな結婚考。大沢章子訳。三〇〇〇円

子どもたちの階級闘争

ブロンク・フリテンの無料託児所から
ブレイディみかこ UKの最貧困地区の子どもたちが集う託児所を通して、今日の「上と下」「自己と他者」の分断を描く。二四〇〇円

情報倫理

技術・プライバシー・著作権
大谷卓史 インターネットの諸問題から、電子書籍と図書館、著作権の哲学、個人情報、国家と公共性の行方などを分析。五五〇〇円

中枢神経系「古代篇」

構造と機能 理論と学説の批判的歴史
スーレイ 古代から十九世紀末まで膨大な学説を網羅した神経学者的な学説の大家を公刊。萬年甫・新谷昌宏訳。二〇〇〇円

家族の表象

1893-1987
中井久夫集2
『分裂病と類』精神科治療の覚悟』でその名が広く知られ渡り始めた時期の文章。「つながら」の「精神病理」ほか三六編。三三〇〇円

量子力学と経路積分

新版
フラインマン／ヒップス 量子力学の見方が変わる名講義。原書二〇一〇年版に基づく新版。スターイヤイ校訂。北原和夫訳。五八〇〇円

音と意味についての六章

ヤコブソン 音韻論の最著名な入門書。序文を寄せたレイヴィン・ストロスが構造化人類学の発想の原点とした書。花輪光訳。二八〇〇円

見えるものと見えないもの

付・研究ノート
メルロ・ポンティ 未完の草稿群と晩年の「研究ノート」。自らの思想の批判から新たな存在論を示す試み。滝浦木田訳。七四〇〇円

ゲンユタルトクライス

知覚と運動の人間学
ヴァイツェッカー 『パトゾフィー』の著者が、生物学と哲学を越境する生命の人間学を提示する。木村・濱中訳。五六〇〇円

なぜアレントが重要なのか

ヤンク・ブルーエル アレントが徹底して考えたことを、現代世界にどう生かしているのか。思索の根源。矢野久美子訳。三八〇〇円

ウンベルト・サバ詩集

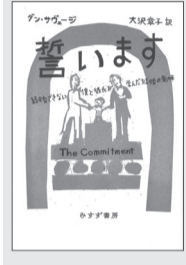
トリエステの坂のうえで、きょうも私のサバがゆつたりと愛用のパイプをふかしているはずだ。名詩名訳！ 須賀敦子訳。三六〇〇円

書評コラム

二一世紀に入ってから、欧米各国において同性間での婚姻の是非は大きな政治的議題になっている。とくに二〇一五年に全米で同性結婚が認められたことは日本でも大きく報道され、世界的な流れはそちら側にあることを印象づけた。欧米ではすでに同性婚ではなくマリッジ・イコリティ(平等な結婚)というワードが一般化しており、つまり、いまや人権問題として認識されているということだ。

『誓います』結婚できない僕と彼氏が学んだ結婚の意味』の原著は二〇〇四年に書かれており、その現在に至るまでの同性愛者たちの葛藤や闘いが

木津毅 D・サヴェージ 《誓います》 大沢章子訳 を読む



じていく。そもそも著者は結婚しようとは考えていなかったが、母親のプレッシャーによってしぶしぶボーイフレンドと相談することになった……という経緯は多くのひとにとって微笑ましく共感できるどころだろ

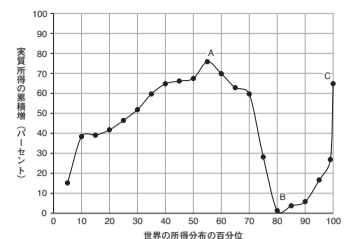
う。たしかに「同性結婚」は政治的な問題でもあるが、それ以前に「結婚」は個人としての人生に深く関わるものである。ところが、ほとんどの自虐的なまでに赤裸々な描写によって提示さ

えてそれでもなぜひとは結婚するのか、デリケートな話題にも遠慮せずスカズカ突入していく様はなかなか痛快だ。本書において結婚はたんなる綺麗ごとではなく、その厄介さや面倒くささも含めて丸ごと受け止められているのだ。

おそらく今後、日本でも同性婚はより現実的な議題となっていくだろうが、だからこそわしたちは結婚の意義について徹底的に考えるべきだ。読者はここにたくさんのヒントを発見できるだろう……笑いな

から。『きづ・つよし 音楽・映画ライター』

大沢章子訳(前面下に広告)



1人当たり実質所得の相対的な伸び 1998-2008年 横軸は世界の所得分布の百分位 縦軸は実質所得の累積増(%)

巨大なゾウが世界を動かす

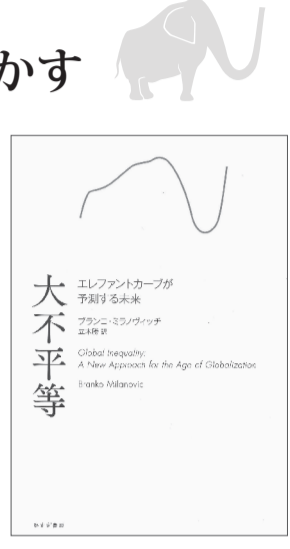
ブランコ・ミラノヴィッチ

《大不平等 エレファントカーブが予測する未来》

立木勝記

「各国間と国内の不平等をこれ以上ないほど明確に語ってくれる。必読書だ」トマ・ピケティ。「これからの世界は、グローバルなトップ1%層に支配されるのだろうか、それとも支配するのは巨大なグローバル中間層だろうか」ジョセフ・スティグリッツ。「斬新かつ挑発的な発想の宝庫だ」アンガス・ディートン。金権政治、ポピュリズム、グローバルエリートへの支配、

「各国間と国内の不平等をこれ以上ないほど明確に語ってくれる。必読書だ」トマ・ピケティ。「これからの世界は、グローバルなトップ1%層に支配されるのだろうか、それとも支配するのは巨大なグローバル中間層だろうか」ジョセフ・スティグリッツ。「斬新かつ挑発的な発想の宝庫だ」アンガス・ディートン。金権政治、ポピュリズム、グローバルエリートへの支配、



大不平等

エレファントカーブが予測する未来

「経済学」(四六判・304頁・三二〇〇円)

二十世紀ロシア文学の至宝『人生と運命』の作家グロスマン。独ソ戦末期に赤軍記者としてナチ絶滅収容所を報じた表題作他、第二次世界大戦の終結前後までに執筆あるいは構想されたルポルタージュ・小説・戯曲を収載する。グロスマンは社会主義国家建設に参加し努力しながら、次第にスターリン体制批判へと転じていった。それぞれの場所から歴史を生きた人間の自由や優しさや善良さを描いた。『システイナの聖母』(四六判・392頁・四六〇〇円)

在日韓国人二世の証言 崔龍龍 《一枚の切符》(チエナムヨム) あるハンセン病者のいのちの綴り方

太平洋戦争直前に瀬戸内海の国立療養所邑久光明園に収容され、今もそこで暮らす在日韓国人二世の魂と生活の記録。収容時に歩かされたのは消毒液まみれの黒い道だったが、譲られた一枚の切符で家に帰りながらまた療養所に戻ったのは自ら選んだ道だった。この切符をどうしびとして暗闇を生きぬぎ、書き続けてきた癡(らひ)の語り部が、瀬戸内海の孤島から現代社会へと投げかける人生の光芒。国民年金からの排除、隔離法廷、指紋押捺、胎児標本問題……わたしたちの未来はここから逃れられるのか? 世界のエコノミストが絶賛した2016「エコノミスト」『フィナンシャル・タイムズ』ベストブックが示す不平等研究の最新線。『経済学』(四六判・304頁・三二〇〇円)

ワイマール末期のドイツ。マルク紙幣が一夜にして紙屑に変わったインフレ後の不況に我が主人公は登場する。彼、ピネベルクは北ドイツの街で肥料店の簿記係を務めるホワイトカラーの23歳。彼女、「子羊ちゃん」ことエマは22歳。海辺で出会った二人は中距離恋愛で二週間に一度会っていたが、彼女の妊娠がわかり、プロポーズするところから物語は幕を開ける。希望にみちて新生活に入ったものの、突然の理不尽な解雇にあい、つてを頼って二人はベルリンへ。新しい職場は友人、そしてベビー。が、空前の大量失業時代にピネベルクはあつけない再び失職する。滑って転んで落ちぶれて、それでおしまい。きちんとし

二十世紀ロシア文学の至宝『人生と運命』の作家グロスマン。独ソ戦末期に赤軍記者としてナチ絶滅収容所を報じた表題作他、第二次世界大戦の終結前後までに執筆あるいは構想されたルポルタージュ・小説・戯曲を収載する。グロスマンは社会主義国家建設に参加し努力しながら、次第にスターリン体制批判へと転じていった。それぞれの場所から歴史を生きた人間の自由や優しさや善良さを描いた。『システイナの聖母』(四六判・392頁・四六〇〇円)

宮崎かつ彥『長い道』私は一本の木(各二四〇〇円) 近藤宏一『闇を光に』(二四〇〇円) ヒスロップ『封印の島』全2巻 中村妙子訳(①二八〇〇円②二六〇〇円) 月刊雑誌 《みすず》 最近号より

滑って転んで落ちぶれて

ハンス・ファラダ 《ピネベルク、明日はどうする!?!》 赤坂桃子訳

て清潔だったのは過去の話。仕事と毎日のパンの心配がなかったのは過去の話。前進希望は過去の話。貧困は不幸だけでなく、刑罰の対象なのだ。貧困は恥であり、貧困は嫌疑だ。貧困が元ホワイトカラーの矜持を打ち砕く。底辺へ転げ落ちようとするピネベルクの前に灯された小さな光とは…… ナチズムへの道を用意した社会を抉る超ロングセラー。『ドイツ文学』(六月下旬刊) (四六判400頁・予三六〇〇円) ■映画『ヒトラーへの285枚の葉書』七月公開予定 原作はファラダの絶筆『ベルリンに一人死す』赤根洋子訳(四五〇〇円)、『ドイツ国民による反ナチス活動を描いた最高傑作』(フリーモ・レーヴィ)。

「経済学」(四六判・304頁・三二〇〇円)

二十世紀ロシア文学の至宝『人生と運命』の作家グロスマン。独ソ戦末期に赤軍記者としてナチ絶滅収容所を報じた表題作他、第二次世界大戦の終結前後までに執筆あるいは構想されたルポルタージュ・小説・戯曲を収載する。グロスマンは社会主義国家建設に参加し努力しながら、次第にスターリン体制批判へと転じていった。それぞれの場所から歴史を生きた人間の自由や優しさや善良さを描いた。『システイナの聖母』(四六判・392頁・四六〇〇円)

「経済学」(四六判・304頁・三二〇〇円)

Advertisement for the exhibition 'Alberto Giacometti' at the National Museum of Modern Art, Tokyo. It features the title 'ALBERTO GIACOMETTI' and lists several books for sale: 'Portrait of Giacometti' (3,200 yen), 'Complete Giacometti Handwritten Notes' (4,200 yen), and 'Album - Giacometti' (8,000 yen). The exhibition runs from June 14 to September 4, 2017.

新装版 7月

ゾルゲの見た日本

みすず書房編集部編 スパイとしてジャーナリストとして戦前の日本に何を見たか。7篇・付録。¥2600

東京裁判における通訳

武田珂代子 リアルなコミュニケーション過程を明らかに。通訳学と政治社会学、架橋の成果。¥4200

サリヴァンの精神科セミナー

クヴァーニス/パーロフ編 一流の面接法を、実践的に例示した症例研究の実録。中井久夫訳 ¥6200

解離

若年期における病理と治療 パトナム 解離とは、解離性障害とは何か。危急の問題に方向性を示す勇気のある書。中井久夫訳 ¥8000

ファン・ゴッホの手紙

生きる意味と絵画芸術への専心。画家の全貌を示す決定版書簡選集。二見史郎編訳 関府寺司訳 ¥5400



ジャコメッティ《歩く男》1960年 ブロンズ マグ財団美術館 Archives Fondation Maeght, Saint-Paul de Vence (France)

「見えるとおりのコップを描こうとするのは、かなり控え目な企てのように見える。とはいっても、それは事実上不可能だとわかっているのだから、それが控え目なのか傲慢なのかさえもはやわからぬ」(ジャコメッティ)

なぜかくも細いのか……

ジャコメッティ・インタビュー全文収録

デイヴィッド・シルヴェスター 《ジャコメッティ 彫刻と絵画》

武田昭彦訳

ジャコメッティの作品は、自分が見ているものをコピーしようとしてきたすべての芸術家が知る絶望を剥き出しにしておく。同時にそれは、いままで見たいっさいのものから除去されて残った堅い核が存在するという事、そしてそれが固定化され、保存され、不滅のものであるかのように表現されるということの主張なのである(シルヴェスター) ジャコメッティの彫刻はなぜかくも細いのか……。一九四八年に出会って以来親しく交流、矢内原伊作と同様にモデルとしてポーズをとり、ロンドンでの大回顧展をも実現させたイギリス人美術批評家・キュレーターが見ることに、見えたものを再現すること、そして創造することの意味をジャコメッティとともに考えつづけた四十間の軌跡。一九六四年、著者を聞き手にBBCラジオで放送されたジャコメッティ・インタビューを全文収録。『芸術』七月号刊(45判280頁・予五〇〇〇円)

最新遺伝学で蘇る科学史の名著

中村植里 著 日本版のルイセンコ論争 米本昌平解説 かつてロシアはもとより日本の生物学をも長期の混乱に陥れたルイセンコ学説をめぐる論争の記録。日本でも多くの科学者が、この非科学的な遺伝学説を、実験によつて検証すべき仮説としてではなく思想闘争の道具として扱った。本書は、科学者達の当時の問題意識や、生物学会が機能不全に陥つていく過程を精緻に描写する。(四六判328頁・予三三〇〇円)



「昭和」を送る ほかに全26編 中井久夫集3 《世界における索引と徴候》(第三回配本) 1987-1991 精神科医・中井久夫が半世紀にわたりに届けたつづけた言葉の数々を年代順に編む好評のシリーズ『中井久夫集』(全11巻)。本巻には、時代の潮目にあつて、専門、非専門にわたり豊かな洞察をのびた時期の文章、長短二六編を収録する。『目次抄』意地の場について「医療における合意と強制／私の仕事始め／引き返せない道／統合失調症の精神療法／「昭和」を送る／微視的群衆論／R・D・レインの死／世界における索引と徴候／サリヴァンの統合失調症論／一つの日本語観／花と時刻表／私」

『文藝別冊』で中井久夫特集 河出書房新社から先月、ムックが刊行されて話題です。

みすず書房 営業部だより

弊社も所属している『書物復権』十社の会の重要な活動として、会員各社の品切書の共同復刊があります。リクエストを基にご要望の多い書目を復刊する事業ですが、二十一年間継続していることもあり、本好きの方々には知られてきているかと思われ(本紙二面下広告も参照)。今回、読者の皆様のご意見やご要望をうかがえればと、十社共通のアンケートハガキを製作しました。各社の復刊書籍に挟み込んでいますので、ご返信いただけましたら幸いです。抽選で十名様に図書カードをプレゼントいたします。年内到着分まで有効ですが、ご購入後お早めにお送りいただければと思います。どうぞよろしくお願いたします。なお、十社の会で共同出版を続けてきた東京国際ブックフェアは、今年は中止となりました。まことに残念ですが、ご諒承下さい。

「エコノミックス」好評です マイケル・グッドウィン著 ダン・E・バー画『エコノミックス』脇山美伸訳が、書店で図書館で、反響をよんでいま。学校図書館からのご注文もあいつぎ、ライター武田砂鉄氏の力強い書評も信濃毎日新聞ほか各紙に掲載。「変動する社会を鳥瞰する鍵としての経済学。それはごく当たり前の視座なのだが、その当たり前がここまでクリアに視覚化された例を知らない」と。音楽ライター野田努氏と対談(MARUZEN&ジュンク堂書店渋谷店)ともに息の合ったトーク。会場は活気にみちて大盛況。短い日本滞在の過密スケジュールのなか、書店訪問に、インタビューに、笑顔で飛び回られました。



写真提供 東京新聞

トークイベントが開かれました 『子どもたちの階級闘争』(本紙二面下広告)の著者、ブレイディみかこさんを迎えて先月二つのイベント開催。岸政彦・松尾匡両氏と鼎談(共催・三省堂書店神保町本店)

みすず書房 近刊のお知らせ

8-10月の刊行予定から

- 映画とキリスト 岡田温司
トラウマの過去 M.ミカーリ/P.レルナー編 金吉晴訳
断章としての身体 ロラン・バルト著作集8 吉村和明訳 [全10巻完結]
歴史家の展望鏡 山内昌之
天才作曲家 大澤壽人(仮) 生島美紀子
コード・ブルー A.ガワンデ 小田嶋由美子訳
インディオ社会史 網野徹哉
「外地」巡礼 西成彦
カエサル 3月15日 Th.ワイルダー 志内一興訳
完訳 天球回転論 N.コペルニクス 高橋憲一訳
全体主義の起原 新版 [全3巻] H.アーレント 大久保和郎他訳
エルサレムのアイヒマン 新版 H.アーレント 大久保和郎訳
(ウェブサイトにもご案内 http://www.msuz.co.jp)

みすず書房・最近の重版より

- エコノミックス—マンガで読む経済の歴史 M.グッドウィン D.E.バー画 脇山美伸訳 ¥3200
夢遊病者たち [全2巻] Ch.クラーク 小原淳訳 ①¥4600②¥5200
生きがいについて 《神谷美恵子コレクション》 神谷美恵子 柳田邦男解説 ¥1600
70歳の日記 M.サートン 幾島幸子訳 ¥3400
死すべき定め—死にゆく人に何が出来るか A.ガワンデ 原井宏明訳 ¥2800
貧乏人の経済学 A.バナジー/E.デュフロ 山形浩生訳 ¥3000
日本の200年—徳川時代から現代まで 下 [新版] A.ゴードン 森谷文昭訳 ¥3800
治安維持法の教訓—権利運動の制限と憲法改正 内田博文 ¥9000
ジャコメッティ 矢内原伊作 宇佐見英治・武田昭彦編 ¥5400
生命、エネルギー、進化 N.レーン 斎藤隆夫訳 ¥3600